

不登校対応の スタンダード

「西予市不登校対応のスタンダード」は西予市内すべての学校において共通して、実践すべき事柄を再確認し、不登校問題の解消を目指すものです。

R6.4 西予市教育委員会発行

不登校は「さなぎ」のようなものです。羽ばたくための準備の時期であり、自分らしい成長を探している過程でもあります。もちろん問題行動ではありませんし、登校することができれば解決という問題でもありません。不登校という行動を取らざるを得なかった本人の気持ちに寄り添い、より良い解決を目指しましょう。本人や保護者、あるいは、担任だけが悩みを抱えている状態では良い解決につながりません。みんなの成長につながるように各ステージのチェックポイントを確認してみましょう。

ステージ0
不調に至る前
これが大前提

ねらい 「行きたくなる・行く価値がある」学校づくり

不登校を生まない学校をめざす

取組1 明らかに安全であることを保障する

ここをエック

- 子どもたちと「たわいもない会話」をたくさんする
- 担任以外にも気軽に話ができる大人をつくる
- SOSを出すことができ、受け止めることができる体制をつくる
- 子ども話を頭から否定せず、ひとまず受け止める
- 互いに尊重し合い、心地よい距離感の関係をつくる
- 指導はわかりやすく、一貫性があり、双方向を心掛ける
- 学校生活の望ましい姿や学校でのルールをわかりやすく示す
- その人なりのがんばりを認め、支える雰囲気がある
- いじめ、暴言など人権を侵害する行為のない空間である

安心な絆と安全な居場所がある



取組2 学校に行くはっきりした目的をもたせる

ここをエック

- 学びの場として選ばれる学校、「わかる」「楽しい」授業
- 授業についていけなくても参加できる場面がある授業
- 子どもたちのやりたいことができ、学びたいことが学べる環境をつくる
- 「ありがとう」と言われる場面をつくり自己肯定感や所属感をもたせる
- 子どもたちが自己決定する場面を設定し、決定したことを大切にする

学校に行って〇〇をする！



取組3 個のペースに合った成長を認める

ここをエック

- 本人に合った適切な目標を設定し、適宜見直しをする
- 苦手なことについてどのくらいがんばらせるか考えをもって接する
- がんばってもできないことについては代替措置等を取る
- 子どもの家庭環境や昨年の欠席数など、背景の理解につとめる
- 子どもたち、それぞれのペースで成長できる活動を提案する
- 自分の授業や教育活動が不登校を生んでないか子どもの視点に立ってみる

「得意」を伸ばす「苦手」と付き合う



ステージ1
休み始め
初動が大事

ねらい

「登校できれば解決」ではないが、登校できれば次の手段がある

長期欠席にさせない

取組4
こころをシェア

本人や保護者の苦痛や困り感を緩和する

- まず日常の安定！気になること、登校の障害になることはできるだけ取り除く
- 思い込みや決めつけをせず、ひとまず子どもや保護者の話を聞く
- がんばったらできる子が、がんばり過ぎていないか がんばりが継続可能か再点検
- 本人も困っている、保護者も困っているという視点をもって接する
- 友達をはじめとする人とのつながりの確認や再構築
- 不登校は家庭や本人の問題と責任を押し付けない
- 強引な指導で関係を壊してしまうことのないようにする
- 「とりあえず来たから解決」ではない、困り感に対応することで解決を目指す
- いじめ・虐待が疑われる様子があれば直ちに管理職と共有

まず聞こう 話はそれから



取組5
こころをシェア

初期対応で長期化を防ぐ

休み始めの1本の電話で長期戦を回避できるかも

欠席1日目 まず情報収集、SOSの見落としはなかったか

- 電話で子どもの声を聞き、様子を把握する 声が聞けてよかったです
- 欠席連絡に変わった様子はないか 休み明け、あいまいな理由等

欠席2日目 心配しているという気持ちを伝え、不安に寄り添う

- 不安感を取り除く電話連絡 明日の時間割、宿題等の連絡を行う
- 再度サインの見落としはなかったか情報を収集し、共有する 人間関係、宿題、提出物等
- 家庭での様子を聞き、安定して過ごせているか確認 チーム支援への切り替え準備

欠席3日目 チーム支援の開始 自己決定と合意形成 継続支援への移行も視野に

- 情報を整理し家庭訪問、保護者とじっくり話を 登校のハードルを下げる環境調整
- 登校しやすい環境の提案、適切な登校刺激 登校後の過ごし方を明確に



ステージ2
休みが長期化
チームで支える

ねらい

「がんばり続ける」ことはエネルギーが必要です

継続支援の体制を作る

取組6
こころをシェア

チームで支えて持続可能な支援にする

- 継続可能な別室登校、保健室登校などの体制づくりを整える
- 支援や関係持続を複数で分担する クラスや部活の友達などにも輪を広げる
- 保護者が安定して本人と関わることができるように支援する
- 関係機関と定期的に連絡を取り、アドバイスを受ける
- 社会とつながるよさを味わう機会をつくる
- 登校の目的、別室での活動内容を本人と合意形成して決めていく

違う視点からも
考えてみよう

